

# 地 域 再 生 計 画

## 1. 地域再生計画の名称

「たたら」生きづく雲南市 道路ネットワークづくり計画

## 2. 地域再生計画の作成主体の名称

島根県、雲南市

## 3. 地域再生計画の区域

雲南市の全域

## 4. 地域再生計画の目標

### 4-1 地域の現況

雲南市は、島根県の東部に位置し、松江市、出雲市等に隣接し、南部は広島県に接している。総面積 553.37 km<sup>2</sup>のうち林野が 8 割を占める中山間地域であり、全域が過疎地域指定を受けている。

総人口は平成 22 年国勢調査によると 41,917 人で、平成 17 年から平成 22 年の 5 年間に 2,486 人減少している。近年、少子高齢化が加速しており、平成 22 年の年少人口割合は 12.2%、高齢化率は 32.9%となっている。出生率の低下をはじめとした全国的な要因に加え、若年層の恒常的な市外流出が少子高齢化の大きな要因となっている。また、管内の一般有効求人倍率が県下で最も低い水準の 0.8 倍台で推移するなど厳しい雇用環境にある。地域に雇用の場が少ないことで若年層等の人口流出に拍車がかかり、人口減少・高齢化がさらに進行するという悪循環に陥っている。

本市の農業は、地理的条件から 1 戸当たりの農業経営規模が零細であり、高齢化及び兼業化が進んだ典型的な中山間地農業である。農業経営は水稲単作が大部分を占めているが、水稲を中心とした肉用牛、野菜、果樹等による複合経営も行われている。また、本地域ではいち早く有機農業を取入れ、安全・安心な農産物の生産地として高い評価を得ている。こうした複合経営と有機農業の組み合わせにより、より生産性の高い安定した農業経営ができるように、海外輸出事業を平成 24 年から行っている。さらに新たな対策としてリースハウス事業を平成 29 年度から予定している。

また、水稲は、本市の農業生産額の 50%を占める基幹作物であるが、近年、米消費量の減少、米価の下落、高齢化や担い手不足による耕作放棄地の増加など様々な理由により米の生産量は減少傾向にある。今後、米産地の生き残りをかけてますます激化する産地間競争に勝ち抜くために、品質や食味を重視した「売れる米づくり」として、「プレミアムつや姫 たたら焔米（ほむらまい）」を今秋より販売し水稲経営の安定化を図っていく。

一方、観光資源についてみると、平成28年4月に日本遺産認定を受けた「出雲國たたら風土記 ～鉄づくり千年が生んだ物語～」の舞台となるたたら製鉄を今に伝える「菅谷たたら山内」が JR 西日本の高級寝台列車トワイライトエクスプレス「瑞風」の立寄り地に予定され、エグザイル主演の映画「たたら侍」が公開予定であるなど、「たたら」が注目を浴びている。

また、古事記に残るスサノオノミコトのヤマタノオロチ退治の神話伝承の地や古来から湧き出る温泉地も数多くあり、39 個の銅鐸が出土した「加茂岩倉遺跡」など名所旧跡が市内に点在している。

このような中、平成24年までの年間観光入込客数は90万人前後で推移していたが、山陰と山陽を結ぶ新たな大動脈である中国横断自動車道尾道松江線の松江自動車道が平成25年3月、尾道自動車道が平成27年3月に開通し全線開通したことにより観光交流に係るアクセス環境が大幅に向上し、ここ3年間の平均年間観光入込客数は約140万人となっている。

一方、移住・定住対策として、情報発信を充実させるとともに、平成27年度からは定住支援スタッフを2名増員し5名体制とし、移住・定住相談に対しよりきめ細やかな対応を取っている。また、就農サポートや空き家を利用したシェアオフィスを開設し定住後の仕事への支援を行っている。

また、市内に点在する空き家を空き家バンク制度として登録し、物件情報の提供や空き家片付け補助など空き家活用支援の充実を図っている。

このような移住・定住対策の充実により、平成22年度から平成26年度の平均移住世帯・人数は19世帯・47人であったが、平成27年度は43世帯・80人と大幅な増加となった。

#### 4-2 地域の課題

平成25年3月の松江自動車道の開通により観光入込客数は大幅に伸びたものの平成26年には対前年比4%減だったが、平成27年度の尾道自動車道の全線開通により増加し148万人に回復した。この年間入込客数を落とすことなくさらに増加させるためには、松江自動車道や一般国道54号から各観光施設への県道、市道、広域農道の道路網を一体的に整備し、周遊プランによる観光ルートの構築が急務となっている。また、観光消費額については、観光入込客数の増に比例して伸びていないため、市道、広域農道を整備することにより観光客の雲南市内での周遊の快適性を促進し、観光入込客数に応じた効果を得るために安全・安心なアクセス網が必要である。

しかし、生活道路及び災害時の避難路、地域内外のアクセス道路として重要な広域農道は、老朽化により路面や法面の損傷や劣化が進み本来の機能が失われつつあり、市民、観光客の周遊の快適性、観光客の誘客、移住・定住を促進するためには、早急な対策により安全・安心を確保する必要がある。

#### 4-3 計画の目標

こうした状況を踏まえ、地方創生道整備推進交付金により市道改築と広域農道の保全対策を一体的に整備することにより、観光施設間の周遊性及び農産物や畜産物の輸送効率を向上させるとともに防災・減災を図る。また、「まち・ひと・しごと創生」に向けた定住基盤の整備や人材の育成・確保を進める中、市中心部と集落との交流を活発に図ることで、地域の一体的発展・再生により更なる定住の促進や観光振興・農業振興の活性化を目指すものである。

(目標1) 観光交流の活性化 (年間観光入込客数の増加)

148万人 (平成27年度) ⇒ 150万人 (平成33年度)

(目標2) 年間観光消費額の増加

40億円 (平成27年度) ⇒ 43億円 (平成33年度)

(目標3) 移住人口の増加

43世帯・80人 (平成27年度) ⇒ 70世帯・170人 (平成33年度)

## 5. 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

雲南市を縦貫する広域農道雲南飯石線は中国横断松江尾道自動車道から山陽、四国方面の観光客を雲南市内へ誘客し、観光施設を周遊するために重要な路線であり、また、広域農道雲南大仁線は鳥取方面から奥出雲町を通過し、県外から雲南市内への誘客が期待されるものである。よって、広域農道雲南飯石線、雲南大仁線は雲南市内での周遊プランを考えるうえで、一般国道54号に並ぶ重要な基幹的道路である。さらに、本地域の農産物や畜産物を輸送する重要な路線でもあり、国道や主要地方道の迂回路としての機能も有している。当然ながら、集落間の生活道路であるとともに通勤通学路線でもある。

しかしながら開設から数十年が経過し、落石や雪崩、舗装の劣化など危険個所が多数あり、通行止めや片側通行など規制をすることも度々起きている。

また、市道松笠穴見線は日本の滝百選の龍頭が滝へのアクセス道であるが、度重なる落石があり自動車はもとより歩行者への危険が非常に高い。市道川井箱淵線は広域農道雲南大仁線から主要地方道玉湯吾妻山線へ抜ける最短ルートで交通量が多いが落石も多い。いずれの市道も生活道路として、また、農産物や畜産物の輸送や住民の避難路、緊急車両の通行など安全で効率的な経路、周遊性を向上させるうえでも重要である。

そこで、地方創生道整備推進交付金によりこれらの危険個所を取り除くことにより、地域住民の安全はもとより観光客の安全確保、農産物や畜産物の効率的な輸送や生活道の確保、通勤通学の安全が図られる。また、安全・安心な道路網の

確保により本地域に点在する観光施設の周遊を図り観光客数の増加や滞在時間の増加により地域の活性を図ることができる。あわせて、本整備により地域外から雲南市内へのアクセスの安全性・快適性も向上され、地域内外との交流が促進されるとともに、雲南市で取り組んでいる移住・定住支援としてある空き家の活用も道路沿線で促進され、移住・定住者の増加につながることを期待されるため、本路線を適切に維持していくことが重要である。

## 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

### (1) 地方創生道整備推進交付金【A3008】

対象となる施設は以下のとおりで、事業開始に係る手続等を完了している。

なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・市道 道路法に規定する市道に認定済み。( )内は認定年月日。

松笠穴見線 (平成28年6月15日認定)

川井箱淵線 (平成28年6月15日認定)

- ・広域農道 (保全対策)

雲南飯石線

雲南大仁線

[施設の種類]

[事業主体]

- ・市道

雲南市

- ・広域農道

島根県

[事業区域]

- ・雲南市

[事業期間]

- ・市道

平成29年度～平成33年度

- ・広域農道

平成29年度～平成33年度

[整備量及び事業費]

- ・市道 6.0 km

- ・広域農道の保全対策 (保全対策) 46.8 km

- ・総事業費 928,000千円 (うち交付金464,000千円)

市道 100,000千円 (うち交付金50,000千円)

広域農道 828,000千円 (うち交付金414,000千円)

うち広域農道の保全対策 828,000千円

(うち交付金414,000千円)

[事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の手法]

	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33
指標1 観光地へのアクセス改善	29分	29分	29分	29分	29分	8分
指標2 安全・安心な道路ネットワークの形成率	0%	14%	35%	60%	85%	100%

毎年度終了後に島根県及び雲南市職員が必要な実績調査等を行い、速やかに状況を把握する。

[事業が先導的なものであると認められる理由]

(政策間連携)

市道の改築及び広域農道の保全対策を一体的に整備することにより、個別に整備することに比べて、効率的かつ効果的な施設整備が可能となることから、政策間連携が図られている事業である。

また、一体的に整備された道路ネットワークによって、観光施設間の周遊性が高まり、地域住民はもとより観光客等にとっても、アクセスの安全性・快適性が向上し、地域内外の交流が促進されることは、地域産業及び観光振興、移住・定住の促進といった地域再生の目的達成に資するという点で、先導的な事業となっている。

### 5-3 その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、「たたら生きづく雲南市 道路ネットワークづくり計画」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### (1) 社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金事業

内 容 島根県においては、本計画で保全対策等の実施路線としている広域農道雲南飯石線、雲南大仁線や市道川井箱淵線が接続する主要地方道玉湯吾妻山線、一般県道上久野大東線、掛合大東線、宮内掛合線の線形改良や拡幅整備及び法面对策を行い道路ネットワ

ークを構築する。

事業主体 島根県

実施期間 平成29年度～平成33年度

(2) 農山漁村地域整備交付金事業

内 容 一般国道54号から雲南吉田ICへ乗り入れる一般農道掛合川上線の線形改良や拡幅整備を行い道路ネットワークを構築する。

事業主体 島根県

実施期間 平成29年度～平成34年度

(3) 観光資源を活用した周遊プランや観光イベントとの連携

内 容 市内に点在する観光地をテーマごとにまとめ、周遊プランによる観光客の誘客し、様々な各種イベント会場連携し観光振興を図る。

○ヤマタノオロチ神話伝承地めぐり

日本最古の歴史書「古事記」に残るスサノオノミコトのヤマタノオロチ退治の舞台が雲南市。神話の伝承地を巡りロマンに浸る周遊プラン。(須我神社、印瀬の壺神、八本杉、天が淵など)

○名所旧跡めぐり

日本遺産認定のたたら製鉄にまつわる「菅谷たたら山内」・「田部家土蔵群」、39個の銅鐸が出土した「加茂岩倉遺跡」、日本さくら名所百選「斐伊川堤防桜並木」、日本の滝百選「龍頭が滝」・「八重滝」、日本の棚田百選「山王寺の棚田」ため池百選「うしおの沢池」など市内の名所旧跡を巡り歴史と日本の原風景を楽しむ周遊プラン。

○温泉めぐり

「出雲国風土記」に登場する古来からの温泉が市内に点在する。出雲神話の里に湧く温泉を巡り古代ロマンにふけり心身ともにゆったりリラックスする周遊プラン。(海潮温泉、おろちゆったり館、出雲湯村温泉、深谷温泉、塩ヶ原温泉、波多温泉)

○イベントや体験学習による地元住民とのふれあい

桜まつり、子安観音祭、ホテル観賞、夜神楽大会、きすき夏祭り、加茂二十三夜祭、三刀屋天満宮例大祭、大東七夕まつり、田んぼの学校、人間花田植え、近代たたら創業体験、和紙づく

り体験、味覚狩り体験、たたら鍛冶体験、出雲たたら村、体験型キャンプ場

(4) 移住・定住支援

内 容 ほっこり暮らしてみませんかを合言葉に、U I ターン希望者に田舎暮らしや産業体験を通じ雲南市への移住・定住を促し、移住を目的に空き家の改修を行う場合の助成や公営住宅希望者へは家賃の減額を行う。

事業主体 雲南市

事業期間 平成21年度～

(5) 雲南市ブランド米推進作付支援事業補助金

内 容 雲南市産のブランド米「プレミアムつや姫 たたら焔米（ほむらまい）」の生産向上と水稲経営の安定化のため、買い取り価格の一部を補助する。

事業主体 雲南市

事業期間 平成28年度～

6. 計画期間

平成29年度～平成33年度

7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

4に示す地域再生計画の目標については、計画期間中の中間年度及び計画年度終了後に島根県及び雲南市等の関係機関で構成する「雲南地域再生計画評価委員会（仮称）」を設置し整備状況等の評価を行う。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	平成27年度 (基準年度)	平成31年度 (中間年度)	平成33年度 (最終目標)
目標1 年間観光入込客数の増	148万人	150万人	150万人
目標2 年間観光消費額の増	40億円	43億円	43億円

目標3 移住人口の増	43世帯 80人	64世帯 151人	70世帯 170人
---------------	----------	-----------	-----------

(指標とする数値の収集方法)

項目	収集方法
年間観光入込客数の増	市町村観光動態調査で評価する
年間観光消費額の増	市町村観光動態調査で評価する
移住人口の増	雲南市の移住支援窓口の対応実数より確認する

・ 目標の達成状況以外の評価を行う内容

1. 事業の進捗状況
2. 総合的な評価や今後の方針

#### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

4に示す再生計画の目標の達成状況を始め中間評価及び事後評価の内容を、速やかにインターネット（島根県、雲南市のホームページ）により公表する。